

内科後期研修医（新内科専門研修プログラム）の募集について

当院は、基幹病院として「市立豊中病院内科専門研修プログラム」を登録しています。ここでは、一般社団法人日本専門医機構（JMSB）online systemに記載のプログラムから、抜粋した骨子のみをご紹介します。

募集人数：1 学年 5名

（大阪府にはシーリングがかけられており、若干の変動がある可能性があります）

研修スケジュール：1 年目は基幹施設である市立豊中病院内科で専門研修（専攻医）を、2 年目は連携施設での研修を行います。3 年目には市立豊中病院内科で Subspecialty を含めた専門研修を行います。希望があれば内科研修当初 2 年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修 (Subspecialty 重点研修) の開始を考慮します。

	卒後 1 年目	卒後 2 年目	卒後 3 年目	卒後 4 年目	卒後 5 年目	Subspecialty
医師国家試験合格	初期臨床研修	内科専門研修 市立豊中病院	内科専門研修 (Subspecialty 研修) 連携施設	内科専門研修 (Subspecialty 研修) 市立豊中病院	Subspecialty	
					消化器内科	
					循環器内科	
					呼吸器内科	
					腎臓内科	
					脳神経内科	
					血液内科	
					糖尿病・内分泌内科	
総合内科						

病歴提出

筆記試験

連携施設

市立池田病院	箕面市立病院
市立吹田市民病院	大阪大学附属病院
大阪刀根山医療センター	済生会千里病院
県立西宮病院	近畿中央病院
川崎病院	市立伊丹病院
関西労災病院	大阪急性期総合医療センター
近畿中央呼吸器センター	大阪はびきの医療センター
市立芦屋病院	西宮市立中央病院
国立病院機構大阪医療センター	大阪警察病院
奈良県立医科大学附属病院	

基幹病院の概要

内科の診療科グループは消化器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科、呼吸器内科、脳神経内科、血液内科、総合内科の8グループで構成されます。総合内科疾患、アレルギー、膠原病、感染症、救急疾患の入院・外来患者は7つのグループで横断的に診療を担当しています。すべての領域で外来患者診療を含め、1学年5名に対し十分な症例を経験することが可能です。

2023年度実績	入院患者実数（人／年）	外来延患者数（延人数／年）
消化器内科	2263	39063
循環器内科	928	16313
脳神経内科	538	7404
内分泌・代謝内科	255	12242
腎臓内科	315	7318
呼吸器内科	635	8370
血液内科	512	12601
内科（総合内科）	740	3896
合計	6186	107747

この他、当院は24時間365日の救急外来体制をとっており、2023年度の実績は以下の通りです。

救急外来受診者数： 20,532名

救急車搬入件数： 7,926件

救急外来からの入院患者数

消化器内科： 651名

循環器内科： 453名

脳神経内科： 438名

内分泌・代謝内科 53名

呼吸器内科 218名

血液内科 90名

腎臓内科 67名

総合内科 712名

新専門医制度上の内科領域指導医は 25 名在籍しています（2024 年 4 月 1 日現在）
内科系関連 13 領域のうち膠原病、感染症、老年医学分野を除く 10 領域で専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（2024 年 4 月 1 日現在）

日本内科学会指導医 25 名
日本内科学会総合内科専門医 25 名
日本専門医機構認定（新）内科専門医 4 名
日本消化器病学会消化器専門医 9 名
日本肝臓病学会専門医 6 名
日本循環器学会循環器専門医 9 名
日本糖尿病学会専門医 3 名
日本内分泌学会専門医 3 名
日本腎臓病学会専門医 4 名
日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名
日本血液学会血液専門医 4 名
日本神経学会神経内科専門医 4 名
日本アレルギー学会専門医 1 名
日本臨床腫瘍学会専門医 2 名
日本内視鏡学会専門医 6 名

内科系専門領域の認定施設として以下の教育・研修病院の指定を受けています。

日本内科学会認定医制度教育病院
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本腎臓学会研修施設
日本神経学会専門医制度教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会認定教育施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本脳卒中学会研修教育施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

表. 市立豊中病院内科専門研修施設群の各研修施設概要

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科 数	内科指 導医数	総合内 科専門 医数	内科剖 検数
基幹病院	市立豊中病院	519	213	8	25	25	7
連携施設	市立池田病院	364	194	8	23	19	2
連携施設	箕面市立病院	317	150	5	18	11	2
連携施設	市立吹田市民病院	431	170	7	31	18	4
連携施設	大阪大学附属病院	1086	285	11	102	143	9
連携施設	大阪刀根山医療セン ター	410	360	2	13	13	9
連携施設	済生会千里病院	329	89	6	6	14	3
連携施設	県立西宮病院	364	159	8	22	16	2
連携施設	近畿中央病院	445	165	7	22	15	5
連携施設	川崎病院	278	170	6	16	13	9
連携施設	市立伊丹病院	414	176	10	33	22	6
連携施設	関西労災病院	642	218	5	31	10	7
連携施設	大阪急性期総合医療 センター	865	267	9	36	33	6
連携施設	近畿中央呼吸器セン ター	385	200	7	19	17	0
連携施設	大阪はびきの医療セ ンター	354	178	8	5	10	4
連携施設	市立芦屋病院	199	122	10	14	8	1
連携施設	西宮市立中央病院	151	81	5	16	9	0
連携施設	国立病院機構大阪医 療センター	638	230	9	33	27	12
連携施設	大阪警察病院	580	200	5	10	12	13
連携施設	奈良県立医科大学附 属病院	992	244	10	112	71	11

市立豊中病院内科系診療グループの特徴

血液内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	モーニングカンファ後、病棟診療				
午後				主任部長回診	
夕方		内科医会	血液内科カンファレンス		

午後からは、骨髄検査・輸血などの処置があります。

2) 血液内科の特徴

- * 血液疾患の症例が豊富で、良性・悪性の血液疾患をほぼ経験可能です。
- * 完全無菌室2床、準無菌室6床を備える、日本血液学会専門医研修施設です。
- * 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫の適応症例に、自己末梢血幹細胞移植を施行しています。
- * 外来化学療法にも積極的に対応しています。
- * 血液内科カンファレンスには、看護師・臨床検査部技師（血液・輸血担当者）・病棟薬剤師など他職種からも参加してもらっています。

呼吸器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前		気管支鏡			気管支鏡
午後	合同カンファ (外科)			呼吸器カンファ	

2) 呼吸器内科の特徴

- * 症例数が多く、疾患も多岐にわたっている。
- * 救急指定病院であり、緊急入院が多い。
- * 重症の呼吸不全患者は麻酔科と連携し、ICU管理で治療を行っている。
- * 呼吸器外科とは週に1回合同カンファを行っており、肺癌、自然気胸など手術適応症例がスムーズに外科へ転科できるシステムが構築されている。
- * 肺癌に関しては、呼吸器外科以外にも脳神経外科・放射線科と連携し、集学的治療が行われている。
- * 気管支鏡は年間170例以上施行している。
- * 日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設であり、認定医取得のための資格が得られる。

消化器内科

1) 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		上部消化管内視鏡検査・治療	腹部超音波検査	上部消化管内視鏡検査・治療	上部消化管内視鏡検査・治療
午後	下部消化管内視鏡検査・治療	肝生検・ラジオ波焼灼療法	ERCP・下部消化管内視鏡検査・治療		ERCP・下部消化管内視鏡検査・治療
	消化器内科・外科・放射線科合同症例検討会	内科系合同症例検討会・CPCなど	内視鏡病理検討会／抄読会など	消化器内科症例検討会	

2) 消化器内科の特徴

- * 消化管内視鏡検査および内視鏡下治療に積極的に取り組み、症例数は非常に多い。大腸ポリープのEMRをはじめ、食道癌・胃癌・大腸癌に対するESDも多数例施行している。
- * 救急患者が多く、消化管出血に対する緊急内視鏡検査や内視鏡下止血術の症例数が豊富である。
- * 胆膵疾患に
- * 対するERCPを多数例行い、緊急胆道ドレナージやステント療法も行なっている。EUS-FNAにも積極的に取り組んでいる。
- * 肝疾患領域では、各種肝炎治療や肝癌に対するRFAを行なっている。
- * 消化器癌に対する化学療法にも力を入れている。
- * 外科・放射線科との連携も強く、共同でカンファランスを行なっている。
- * 阪大病院を中心とした多施設共同臨床研究や当科独自の臨床研究に取り組んでいる。
- * 学会発表、国際学会発表、論文発表を多数行なっている。

脳神経内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	電気生理検査			電気生理検査	
午後	脳血管撮影			部長回診 脳神経内科カンファ	脳血管撮影
夕方		内科系医会	脳卒中カンファ		

毎朝 SCU カンファレンスあり
週 1～2 回、脳神経内科救急当番（時間内）

2) 脳神経内科の特徴

- * 神経内科領域全般（急性神経疾患、神経難病、免疫関連疾患、てんかん、頭痛など）の幅広い疾患が経験できる。
- * 脳卒中センター（脳神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科）がある。
- * SCU 当直があり、脳卒中超急性期（t-PA、脳血管内治療）も経験できる。
- * 神経内科専門医に加えて、subspeciality（脳卒中、電気生理、頭痛、リハビリテーション、ボトックス治療など）の専門医師がおり、指導が充実している。
- * 大阪大学神経内科・脳卒中科を中心に多施設とも連携し、勉強会、情報交換会を行っている。

腎臓内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	人工透析/透 析カンファ レンス	人工透析	人工透析	人工透析	人工透析
午後			腎生検/病棟 回診・カンフ ァレンス/勉 強会		

（土曜日にも人工透析あり：交代当番制）

2) 腎臓内科の特徴

- * 慢性腎炎の診断・治療から、保存期腎不全の管理、透析導入まで腎疾患の長い経過の診療に携わることができる。（人工透析室の運用・腹膜透析外来・腎代替療法選択外来も行っている）
- * 当院の特徴として common disease が多いが、それに伴う腎障害を診る機会も多い。
- * 最新の知見の習得に努め、それに基づいた新しい治療法も積極的に取り入れている（耳鼻科と共同で IgA 腎症に対する扁桃摘出＋ステロイドパルス療法、多発性のう胞腎に対するトルバプタン投与など）。
- * 外来維持血液透析は行っていないが、他院での維持血液透析患者の併発症で入院した場合の管理を行う機会が多い。
- * 積極的に学会発表も行っている。
- * 大阪大学腎臓内科学講座とその関連病院とも密に連携し、情報交換・研究会を行っている。

循環器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	心カテ	心カテ・心リハ 心筋シンチ	心カテ	心カテ・心リハ 心筋シンチ	心カテ・心リハ
午後	心カテ	心カテ	心カテ 病棟患者症例検 討	心カテ 運動負荷検査	心カテ 心カテ患者症例検 討

朝夕に CCU カンファレンスあり

2) 循環器内科の特徴

- * 心臓病センターとして循環器内科・心臓血管外科が協同して診療していること。診療科間や多職種の連携が確立されておりスムーズな診療が行える。
- * 地域の基幹病院として 24 時間循環器救急を引き受けており、きわめて多くの循環器救急疾患を経験できる。
- * 研修医に対するマンツーマン指導体制が充実しており、循環器専門医、総合内科専門医としての基礎的な力を身につけることができることができる。
- * カテーテル検査・治療件数、ペースメーカ植込み件数が豊富で専門的なスキルを身につけることができる。
- * 超高齢社会に対応した心臓リハビリテーションや多職種での心疾患マネジメントにも力を入れており、種々の疾患の複合した病態を総合的に診療できる。
- * 大阪大学関連病院と多施設共同臨床研究を行っており、学会発表にも力をいれている。

内分泌・代謝内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	負荷試験	負荷試験	負荷試験	負荷試験	負荷試験
	病棟 糖尿病専門 外来	病棟 糖尿病専門 外来	病棟 糖尿病専門 外来	病棟 糖尿病専門 外来	病棟 糖尿病専門 外来
午後	糖尿病専門 外来	専門回診	透析予防外来 糖尿病専門 外来	糖尿病専門 外来	糖尿病専門 外来
			糖尿病教室		

2) 内分泌代謝内科の特徴

- * 急性期病院である当院には、糖尿病ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖状態の急性代謝失調症例が多

い。

- * 甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼ、高Caクリーゼなど、内分泌救急も多い。
- * ハイリスク分娩例が豊富で、妊娠糖尿病や糖尿病合併妊婦を管理する機会が多い。
- * 糖尿病教育入院患者は毎年200例近くあり、各種病型・病態・病期の糖尿病症例を経験し、患者教育やチーム医療を実践できる。
- * インスリンポンプ（CSII）、持続血糖測定器（CGM）、両者を組み合わせた Sensor Augmented Pump（SAP）など先進機器を用いる治療を積極的に導入している。
- * 新規発症のバセドウ病や橋本病、亜急性甲状腺炎など甲状腺疾患の紹介例が多く、治療開始時から患者を診療できる。
- * 褐色細胞腫、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、ACTH単独欠損症、汎下垂体機能低下症などの副腎・下垂体疾患症例を、診断から治療まで院内で完結して経験できる。特に当院では癌治療が多く行われていることから、irAEによる内分泌代謝疾患（副腎皮質機能低下症など）も多い。
- * リサーチマインド育成に力を入れており、例年数編の学術論文が受理されている。内科学会、糖尿病学会、内分泌学会、関連学会など各学会に毎年演題を発表している。また、大阪大学関連病院の内分泌代謝専門医と専攻医が集うクリニカルカンファレンスで症例発表を行い、他施設との連携と情報交換を行っている。

随時、見学の相談も受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。

問い合わせ先

市立豊中病院 教育研修センター

メールアドレス：kyouikukensyu@chp.toyonaka.osaka.jp

市立豊中病院内科専門修プログラム 指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・ 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が市立豊中病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
 - ・ 担当指導医は、専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や内科専門研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・ 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・ 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。

- 2) 専門研修の期間
 - ・ 年次到達目標は、巻末の別表 1「市立豊中病院内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について」に示すとおりです。
 - ・ 担当指導医は、内科専門研修センターと協働して、3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、内科専門研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、内科専門研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 担当指導医は、内科専門研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。

- 3) 専門研修の期間
 - ・ 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います。

- ・ J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
 - ・ 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。
- 4) J-OSLER の利用方法
- ・ 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
 - ・ 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形式的フィードバックに用います。
 - ・ 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
 - ・ 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
 - ・ 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と内科専門研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
 - ・ 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。
- 5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握
- 専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、市立豊中病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 6) 指導に難渋する専攻医の扱い
- 必要に応じて、臨時（毎年 7～9 月と 1～3 月とに予定の他に）で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形式的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。
- 7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇
- 市立豊中病院および連携施設の給与規定によります。
- 8) FD 講習の出席義務
- 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。
- 9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用
- 内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形式的に指導します。

- 10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- 11) その他
特になし。

別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3	
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例, 「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。